

会議結果報告書

令和8年6月5日

会議の名称	令和8年度第1回社会教育委員会議	
種別	<input checked="" type="checkbox"/> 附属機関 <input type="checkbox"/> 懇話会等	
開催日時	令和8年 5月 21日(木) 13時30分～	
開催場所	舞鶴市役所 別館5階 中会議室	
出席者	社会教育委員8名(欠席:田中委員) 生涯学習部長、生涯学習部次長兼生涯学習推進課長、舞鶴引揚記念館館長、スポーツ振興課長、スポーツ振興課まいかつ担当課長、図書館課東図書館長、人権啓発推進課長、事務局(3名)	
議題	1 挨拶 2 報告 令和8年度生涯学習関連の主な事業計画について 3 審議 令和8年度社会教育関係団体への補助金の交付について 4 協議 社会教育について 5 協議 第34期社会教育委員会議 テーマ設定について 6 その他	
公開の区分	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 部分公開 [理由]	
傍聴者数	0名	
審議結果 及び 主な意見等	1 委員、各課職員自己紹介 2 了承 3 承認 4 社会教育の概要(江上委員) 5 多文化共生、現役世代の居場所、郷土愛の醸成、人とのつながり、仕掛けづくりなど様々な意見があがった。意見を踏まえつつ、34期のテーマを設定する。 6 令和8年度中丹地区社会教育委員連絡協議会日程、次回の会議日程等を共有	
会議録の作成様式	<input checked="" type="checkbox"/> 詳細 <input type="checkbox"/> 要約	
備考		

担当課	舞鶴市 生涯学習部 生涯学習推進課 TEL (0773)68-9223
-----	--

令和8年度第1回社会教育委員会議事録

第1回社会教育委員会議概要

○開催日時 令和8年5月21日(木) 13時30分～17時00分

○開催場所 別館5階 中会議室

○出席委員

阿部委員、江上委員、谷口委員、中道委員、西村委員、森川委員、吉岡委員、渡辺委員 8名

○事務局等

舞鶴市教育長廣瀬教育長 生涯学習部小島部長 生涯学習部森次長(生涯学習推進課長兼務) 舞鶴引揚記念館嵯峨根館長、スポーツ振興課堂田課長、スポーツ振興課まいかつ担当彦坂課長、図書館課東図書館西館長、人権啓発推進課砂田課長、生涯学習支援係 高橋、山本、仲嶋

○傍聴者 なし

1.委嘱状交付

2.挨拶 [教育長]

3.自己紹介

今期初めての会議のため、各委員から自己紹介

4.会長及び副会長選出

阿部委員から渡辺委員を会長に推薦 → 渡辺委員承諾

会長からの指名により、谷口委員を副会長に推薦 → 谷口委員承諾

5.報告

(1) 舞鶴市の組織体制について

→事務局より説明

(2) 令和8年度生涯学習関連の主な事業計画について

→事務局より説明

【(1)(2)に対する質疑】

委員A 四都市スポーツ大会について、種目によっては3市のみという状況がある。市によっては競技者が集まらないといった課題がある。一度、4市の責任者が一同に会する機会を設け、今後の方向性を確認すべきではないか。歴史ある大会だが、現状のまま継続することが難しいのであれば、発展的解消も含め大会のあり方の見直しが必要で、今がその時期だと考える。4市で方向性を確認してほしい。

また、「部活の地域展開」に係る学校設備利用の整理について、府立学校も含めているんな施設を使えるようにしてはどうか。

事務局 各市の担当者やスポーツ協会が集まった際にもこの件は話題に上っており、課題については共有している。これまでにアンケートなども実施してきたが、4市それぞれで多様な意見がある。課題については今後も継続して検討していく。

事務局 「まいかつ」について、現時点では、高校の会場利用まで話はできていない。今後、団体数が増加した際には、そういった必要性も検討していきたい。

委員A 歴史ある大会について京都府北部としてどうするのか検討願う。現在、東舞クラブに剣道が関わっており、東舞鶴高校の体育館が使えるようになっている。このように、他の様々なクラブでも学校設備が使えるようになればと考えている。

委員B 図書館について、近隣の福知山市（駅近）や綾部市（子育て施設隣接など）をみると、本来の図書を借りる目的以外で二次的に立ち寄りたくなる仕組みがあると思う。中央図書館においても、市民がついでに図書館に立ち寄るような取り組み（イベント等）は、キッチンカー以外にどのようなものを考えているか。

事務局 新しい中央図書館では、これまでの図書館のイメージを変え、いろんな世代の利用を促したいと考えている。蔵書開架30万冊を目指しており、これは府内でも上位の規模。そういった中で、本を借りる目的以外でもふらっと立ち寄れる場所を目指し、館内には「市民交流エリア」を設けたり、市民の作品を飾る「ギャラリーコーナー」や、地元の歴史を学べる「郷土コーナー」を設置する計画である。イベントは、図書館主催だけでなく市民主催の企画も実施していく予定なので、委員の所属されている組織・団体からも、ぜひ開催や運営へのご協力をお願いしたい。

委員B 図書館にたくさんの人が行ってほしいと願っている。また、現在はデジタル化が進み紙を見る機会が減っているが、子どもたちには、「紙の図書」を読んでほしいと思っている。また、東地区においても事業を還元してほしい。

6. 議題

社会教育関係団体への補助金の交付について

→事務局より説明

- ①舞鶴市PTA連絡協議会
- ②舞鶴市レクリエーション協会

会長 ①②とも質問がないようなので、承認としてよいか。

→①②とも承認とする。

7. 研究討議

(1) 社会教育について

→江上委員より説明

・社会教育とは

定義:学校の教育課程における教育活動以外の主に青少年と成人を対象にした組織的な学習活動

範囲:学校教育と家庭教育以外の、すべての教育活動が社会教育に該当する。範囲が非常に広い

目的、位置づけ:「生涯学習」(一生涯の学び)の一部。学校・家庭・社会教育の3つを連携させることが重要。

・具体的な仕事(市町村)

市民が学ぶ場を作るのが主な仕事。公民館、図書館、博物館などの施設運営や、様々な講座の実施などが含まれる。

・舞鶴市での社会教育に関する担当部局

本来の権限は教育委員会にあるが、舞鶴市では市長部局の生涯学習部が実務(補助執行)を担当している。

・社会教育委員とは

社会教育に関し教育委員会に助言をするため、諸計画の立案、諮問に応じての意見、職務のための研究調査を行なう。また、舞鶴市の社会教育の向上のため様々な活動が期待される。

(2) 舞鶴版社会教育について

→事務局より説明

- ・これまでの議論（第30期～第33期）
メインテーマは「公民館」と「人が集まる場」についてで、かなり深く掘り下げてきた。舞鶴版社会教育として「ゆるやかに人がつながる地域」を目指し、そのために「集いの場」としての公民館のあり方や、職員に必要なスキルなどを話し合ってきた。
- ・第34期のテーマ設定の方針
公民館（つどいの場）についての議論は一旦区切りとし、社会教育という広い分野の中から、委員の皆さんが日頃の活動で感じていることを基に、新しいテーマを決めていきたい。難しく考えず、皆さんの活動や意見を出し合う中で、「次に何をすべきか」という方向性をまとめたい。

(3) 第34期社会教育委員会議テーマ設定について

→冒頭、事務局より説明

【事務局からの検討テーマ案とそれに対する意見】

■ テーマ1：次世代育成と居場所づくり

- 委員C：デジタル化が進み、人間関係のつながりが希薄になった現代で、今こそ「人と人が教え、育む社会」のアナログな付き合いが重要となっている。かつての昭和のように、地域全体で子どもに関わり育てる社会を目指し、行政主体でその場所作り（サードプレイス）を進めるべきであり、社会教育委員が方向性を誘導すべきと感じている。
- 委員B：自身の子育て孤立経験から、親同士が悩みや本音を共有できる場や機会の重要性を痛感している。現在の公民館や図書館はWi-Fi目的の子どもがゲームなど利用しているように感じているが、人が集まるイベント（音楽や子育て企画等）を仕掛け、親子や親同士が安全に交流できる温かいサードプレイスになればいいと感じている。
- 委員C：個人的な持論として、問題行動を起こす子どもがいるとして、その子が問題行動を起こすのは、その保護者にも何らかの原因があると考えているが、大人の意識改革や保護者へのアプローチ方法が大きな課題であり、答えが見つからず苦慮している。
- 委員D：子育て支援において「困った行動をする人は、困っている人」という視点が不可欠であり、親や支援者自身を周囲が支える必要がある。居場所づくりで重要なのは施（ハード）ではなく、子どもの気持ちを受け止める「人（ソフト）の存在」である。個々で来ている親子連れは「あそびあむ」のような大規模施設ではかえって交流しにくいという声もあり、今後は「繋がりやすい人」の育成や、本音を出しやすい「小規模な場の空気感」など、人にフォーカスした話し合いを展開したい。
- 事務局：現在の公民館では、放課後の児童・生徒によるマナー欠如（騒音、無断充電等）が課題となっている。本来は地域の大人たちが自然に注意できる関係が理想だが、現在は大人側も子どもとの関わりを避けている。地域の大人たちが当事者意識を持って子どもに関われる仕組みやアイデアを考えていきたい。

■ テーマ2：学びのニーズの多様化

- 委員E：過去の調査から、子どもの地元定着意欲には「親（保護者）の地元に対するスタンス」が影響していた。また、これまでの地域学習などで「地域課題の解決」を主としたネガティブなテーマでの探求は逆効果を生んでいる可能性もあり、舞鶴の保護者層の意識調査を行

うとともに、舞鶴市の魅力を次の世代へ伝える取り組みを検討するのもよいのではないか。

- 委員 F：語り部活動を通じて感じるのは、現在の学生は総合学習などにより40代の親世代よりも郷土愛や引揚げの史実への関心が高い。一方で、大人の語り部活動は市民からの認知度が低く、高齢化（60代以上が中心）が進んでいる。引揚げの史実について市民全体の認知度を高めるため、「大人の語り部」の存在を広め、学生の会と両立して市民全体への普及活動をしていくのが課題である。今年度から親子で語り部活動に参加されるご家族もあり、こうした活動を広げていきたい。

■テーマ3：「つながり」の再構築と地域コミュニティの活性化

- 委員 A：深刻な人手不足に伴い、建設業やコンビニの店員等で東南アジア系を中心とした外国籍の住民が増加している。企業による生活サポートには限界があり、地域住民との交流不足から孤立化（外国人コミュニティの固定化）しがちである。今後は外国籍の住民の方も含めた地域ぐるみの共生策を検討すべきだし、その拠点として公民館が何ができるかに取り組む必要がある。
- 委員 G：学校現場でも外国籍の生徒が増加しており、学習支援（記述やルビ打ち等）にも苦慮している。学校・行政・地域の役割分担が曖昧でどこまで援助すべきかの線引がわからず住民の方も引いてしまっている現状がある。今後は公民館や学校が、地域住民と外国籍住民が交流できる「広場」としての役割を果たせればよいなど感じる。今の時代、コミュニティのつながりとして外国籍の住民との共生は切り離せないテーマである。
- 委員 F：自身の地域に移住した外国籍のご家族の例では、日本語が話せない子どもに周囲の子どもたちが言葉の壁を越えて工夫して関わろうとしていたり、母親も婦人会に参加するなど好事例となっている。田舎の地域にも多国籍化の波は来ていると感じる。地域や子どもたちにも良い影響があるため、こうした関わりを広げていくことが大切である。

■まとめと今後の方向性

- 会長：皆さんのお話から社会教育において「地域づくり・人づくり」が本当に大切だと感じる。現在は課題を抱える子に時間をかけて向き合うことも難しく、他人の子どもを注意しにくいといった人間関係性の希薄化が課題となっている。今期の2年間の目標を「人づくり」と定め、それをどういう手段で叶えるのか、検討テーマ案で示してもらったように、「第3の場所」の環境を整えることや、舞鶴市の誇りを伝えていく中で人間関係を作っていくなどの様々な手段を通じて考えていくのがいいのではないか。目的は「人間関係をどう構築していくか」（地域づくり・人づくり）として進めるのがいいのではないか。また、子ども達だけでなく大人の世代が舞鶴市をどう思っているのか、伝えているのかを振り返りつつ考えていきたい。
- 事務局：今期のキーワードは「つながること（集い、つながる）」ではっきりしてきたように思っている。外国籍の住民との共生、子どもの居場所づくりといった地域課題の解決のためのつながりをつくっていくという議論になるかなと考えた。現代のプライバシー保護にも配慮し、過度な干渉はしないが、お互いの存在が見えている「半透明のプライバシー」を意識した、理想的な地域コミュニティのつながり方を軸に「集い、つながることによって地域課題を解決していく」という議論を展開していきたい。

8. その他

(1) 中丹地区社会教育委員連絡協議会総会について
→事務局より日程等説明

(2) 京都府社会教育委員連絡協議会総会について
→事務局より日程等説明

(3) みんなでコラボin中丹について
→事務局より日程等説明

第2回社会教育委員会議について
→事務局より、次回8月開催予定を提案。後日、日程調整をさせていただく

9. 閉会